



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 令和3年9月30日
発行者 校長 芝田智昭

No. 364 10月号

学力を考える<続>

5月号で同じテーマを取り上げました。その際、学力調査にも触れたので結果をご報告します。

<全国学力・学習状況調査結果概要>

【対象】尾久西小学校第6学年59人 【実施日】令和3年5月27日（木）
【調査教科】国語、算数

対象	国語	算数
尾久西小	65	71
東京都（公立）	68	74
全国（公立）	64.7	70.2

※数値は正答率

※該当校と都の結果は整数、
国の結果は小数第1位までで示されている。

実施時期が5月下旬なので、ほぼ5年生までの学力を表しています。国語・算数とも全国の正答率を上回りましたが、都には及びませんでした。数字だけを取り上げて一喜一憂すべきではないと思いますが、客観性と妥当性がある全国規模の調査なので、本校6年生の学力的な位置が把握できます。

前回も述べましたが、学力がすべてではないし学力よりも大切なものはあります。しかし、子どもたちが今後自分の目指す道を進もうとしたとき、身に付けている学力によって道が開けたり、逆に道が閉ざされたりすることがあります。こう考えると学力は、子どもたちが自分の将来を自らの力で切り拓くために備えておくべき資質と言えます。

学力を高める場は学校であり、高める時間は授業です。今回の学力調査結果を受け、教職員に対して授業改善の方向性として以下の三つを伝えました。

- 1 昔から言われる「読み」「書き」「そろばん」が学習の基本。私は、三つには順序性があると考えている。まずは「読むこと」。問題文を正確に読み取ることができなければ解答できない。
- 2 「教え込み」と「主体的な学び」のバランスを考えて毎時間の授業を構成する。どちらか一方だけでは学力は伸びない。
- 3 必要な「教え込み」をためらってはならない。九九、漢字、都道府県名、リコーダーの指づかいなど、学習の土台となる内容は徹底して教え込む。

学力向上に向け、ご家庭でも同じような視点からお声掛けくださるとありがたいです。